

2012年(平成24年)2月20日



や「結婚をしたので」などが多い。大人になったら保険に入らなければいけないという、ある意味、都市伝説にさえなっている。

日本人は8割近くが保険に加入している。年齢別にみると、40代から50代にかけては、この割合が実に9割にもぼる。日本人は保険が大好きな国民なのである。

保険の加入は他人任せにしない

13

加入動機が「将来のリスクを考えて」ではなく、日本人特有の「みんなが加入しているから」とか「付き合いで」になると、どうなるか。例えば「付き合い」で加入する結果、ほとんど

業の人から問われる「いくら払えますか？」をスタートに「2万円払えるならこの保険」が逆算式に決まる。そのため、分かっているのは月々の支払いだけで、保険の目的などは当然理解していない。いくら保障がいつまで続くのかも理解していないので、本当にお金

もまったく分からない。保険は不動産や車と違って総額表示をしないので、意識しなければ保険料の全体像がつかめないのである。ちなみに、1人当たりの生命保険の平均価格は1万5000円とも言われている。例えば加入のきっかけとなる「社会人になってか

8割が内容理解せず選択

いざに保障受けられない場合も

の人が保険の内容を理解しないまま保険料を払うことになる。

が必要ときに、肝心の保障が受けられないケースも実には多いのである。

あるデータによると、保険のすべてを理解し加入している人は全体の16%しか過ぎないという。実に、8割以上の保険加入者が保険の内容を理解しないまま加入しているのだ。

例えば、22歳の独身社会人が死亡保険2000万円以上の生命保険に加入しているなども良く聞く話だが、一般的にはこれだけの保険は必要とは思えない。生涯にわたっていくら保険料を払うことになるのか

ほとんどの人は、保険営業

が一般的にはこれだけの保険は必要とは思えない。生涯にわたっていくら保険料を払うことになるのか

ほとんどの人は、保険営業

が一般的にはこれだけの保険は必要とは思えない。生涯にわたっていくら保険料を払うことになるのか

ば問題はない。問題は、自分の目的にあっていない保険なのに、1600万円を払うことなのである。

職場に来た保険営業からもらったカレンダーやバレンタインチョコレットのお礼に、内容を深く考えず加入してしまうことが問題なのだ。あなたは「チョコレットを1600万で買いますか」。

ではどうすれば良いのか。答えは簡単。「他人任せにしない」こと。保険はとて良い商品ではあることは事実であり、保障にもなれば、節税対策にもなる。

一人ひとりが保険選びを他人任せにせず、保険の内容や加入する目的を自分自身で理解することが重要なのである。

大貫一生 (CF ネット経営企画室長・ライフデザイン事業部)